

オスプレイはいらない！

11・13県民大集会 in 木更津

11月13日1300人の市民が木更津に集まり「オスプレイNO」の声をあげました。10月24日に、ついに木更津の空にオスプレイが飛んでしまいました。許せません。

何を考えているのか森田千葉県知事は「国が安全保障について十分考えた上で決めたこと。協力します」「安全性と騒音について国に要望していきます」と。

国・防衛省は木更津の第一ヘリコプター団の整備隊で沖縄の24機のオスプレイを整備することも、これから購入する自衛隊の17機のオスプレイの整備拠点化となることも当たり前であるかの如く千葉県そして木更津に伝えてきています。千葉県民はオスプレイの整備拠点化に賛成していません。反対しています。危ないオスプレイ、うるさいオスプレイなのです。



先般10/24の測定でも、ホバリング時今飛んでいるCH47JAは84デシベルですがオスプレイは93デシベルであったとオスプレイの騒音の方が高いことを防衛省自身が認めているのです。ウルサイのです。低周波音の問題もあります

又、安全性については垂直離陸モードと固定翼モードの転換時の危険性があり、事故時のオートローションは整備されていない。事故率はクラスBでCH46が0.62にたいしてオスプレイは2.85。クラスCではCH46が1.04でオスプレイMV-22が10.46。そしてハワイでのMV-22オスプレイの死亡事故の理由は、砂ほこりが多い所に降りたのでエンジンに砂ほこりが入ってしまった。砂ほこりのところに降りたパイロットの人的操縦ミスであってオスプレイの機能が原因ではない安全だと言っているのが米軍であり、それを黙って了解するのが日本政府です。更にオスプレイのエンジンの熱は300度程なので降りるとき火災を起こしたり、揚陸艦の甲板を損傷させたり。

こんな危ない“空飛ぶ棺桶”オスプレイをなんで木更津に入れるのでしょうか？

防衛省ははっきり言います。日米新ガイドラインでも“日米協力を更に進めるため共通整備品の備え、および整備体制の強化、相互運用性の向上”が求められていると。

木更津駐屯地のオスプレイ整備拠点化は、安保法制で進める集団的自衛権の行使・海外での武力行使を実行していく為、日米両軍が平時から戦時まで協力する為に必要なのです。オスプレイは日米軍事一体化の象徴でもあります

今、沖縄辺野古には新基地が、東村高江にはオスプレイヘリパットが作られています。千葉県をはじめ全国から500名の機動隊が沖縄に導入されヘリパットNOを訴える住民を権力的に排除、又この木更津の第一ヘリコプター団のヘリが高江のヘリパット建設に協力する為沖縄へ派遣されています。

沖縄と千葉県とはオスプレイで強く繋がりがつあります。安倍政権が進める戦争体制化＝オスプレイの整備拠点化に反対しましょう。木更津の空にも千葉県の空にも沖縄の空にもオスプレイは要りません！